

Title	調剤薬局における消費者行動の実証的研究
Sub Title	
Author	立原二美世(Tachihara, Fumiyo) 池尾恭一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1519号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1519

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	池尾 研究会	学籍番号	89828523	氏名	立原 二美世
(論文題名)					
調剤薬局における消費者行動の実証的研究					
(内容の要旨)					
<p>零細規模の医薬品小売業（いわゆるパパママドラッグ）が減少し続けている。この最大の要因は、業界を取り巻く環境が変化している中で、医薬品小売業者が従来通り、供給側の論理で戦略を立案しそれを需要側である消費者に押し付けていた、と言うところにあると考えられる。近年、医薬品の販売等に関する規制緩和が少しずつではあるが進んできている。様々な医療費抑制策も検討されている。また、消費者のニーズも多様化してきている。このように環境が変化している中、医薬品小売業は、今までのような供給側の論理を展開するのではなく、消費者にも配慮すべき時代になってきていると言えるのではないかと。以上のことを踏まえ、本研究では、消費者調査により薬局選定時における消費者のニーズを明確にし、旧態依然とした経営を現在も続けているパパママドラッグが成功するための競争戦略を構築するのが本研究の目的である。</p> <p>分析の結果、消費者が調剤薬局を選択する際のポイントを絞り込むことができた。それは、「待ち時間」、「立地」、「薬剤師による薬の効能効果及び副作用の説明」の3つである。また、これら3つのポイントを選好する消費者には、それぞれ特徴があることが確認できた。環境の変化に対応するとともに、これら3つのタイプに分けた消費者それぞれに合った行動をとることこそが、これから消費者が望む理想的な薬局になれる必要条件となる。</p>					